

第5回 妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会

出産育児一時金の見直しを踏まえた出産費用の分析並びに産科医療機関等の適切な選択に資する情報提供の実施及び効果検証のための研究(令和6年度厚生労働行政推進調査事業補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)))

「出産ナビ」についての妊産婦のアンケート調査の結果

2024年11月13日(水)

田倉 智之

日本大学医学部社会医学系医療管理学分野／東京大学大学院医学系研究科医療経済政策学

本日の構成



- 調査方法および回答者の背景
- 「出産ナビ」の利用目的と実態整理
- 「出産ナビ」の利用別における主な傾向
- 「出産ナビ」の利用別における評価の概要

調査方法の概要

➤ 本調査の方法は、以下のとおりであった

1. 調査時期

2024年9月

2. 調査方法

パネルを利用したWEB調査

3. 調査対象

妊娠中または2024年6月以降に出産した産婦（全国）（※「出産ナビ」が2024年5月末に運用開始したため）

4. 調査条件

地域（都道府県）、年齢（5歳帯）の条件で、妊産婦の人口構成に補正

5. 設問数

91設問

6. サンプル数

3000件（回答率：100%）

回答者の背景と「出産なび」サイト利用の割合

- 回答者（3000人）の背景は、出産経験がある妊娠中の集団が43.5%、次いで2024年6月以降に出産を経験した集団が29.2%、出産未経験で妊娠中の集団が27.4%であった。出産なびサイトを知っていた人は回答者全体の35.9%であり、サイト利用者は回答者全体の18.0%を占めた

表. 回答者の集団分類

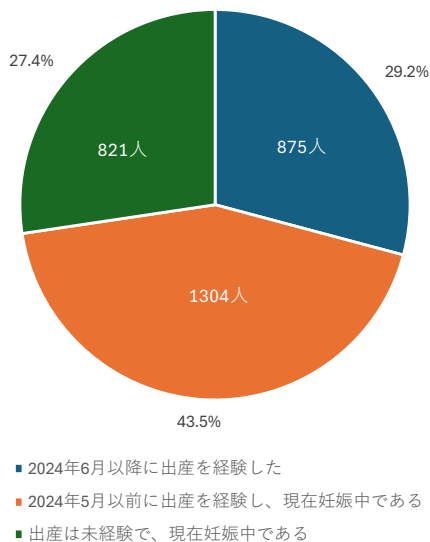
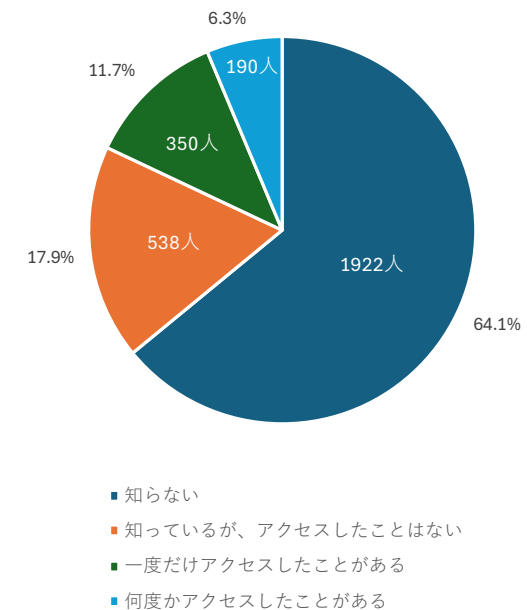


表. サイト利用の割合



「出産なび」サイトを利用した回答者の背景

- サイトの利用は、妊産婦の最終学歴が高いと割合が大きく、妊産婦の年齢が高いと割合が小さくなった。サイトの利用には、多様な要因が複雑に関わると推察された。なお、その利用率は都道府県別で大きく振れるが、地域特性の一つである人口密度との関係は認められなかった

図. サイト利用と妊産婦の背景要因

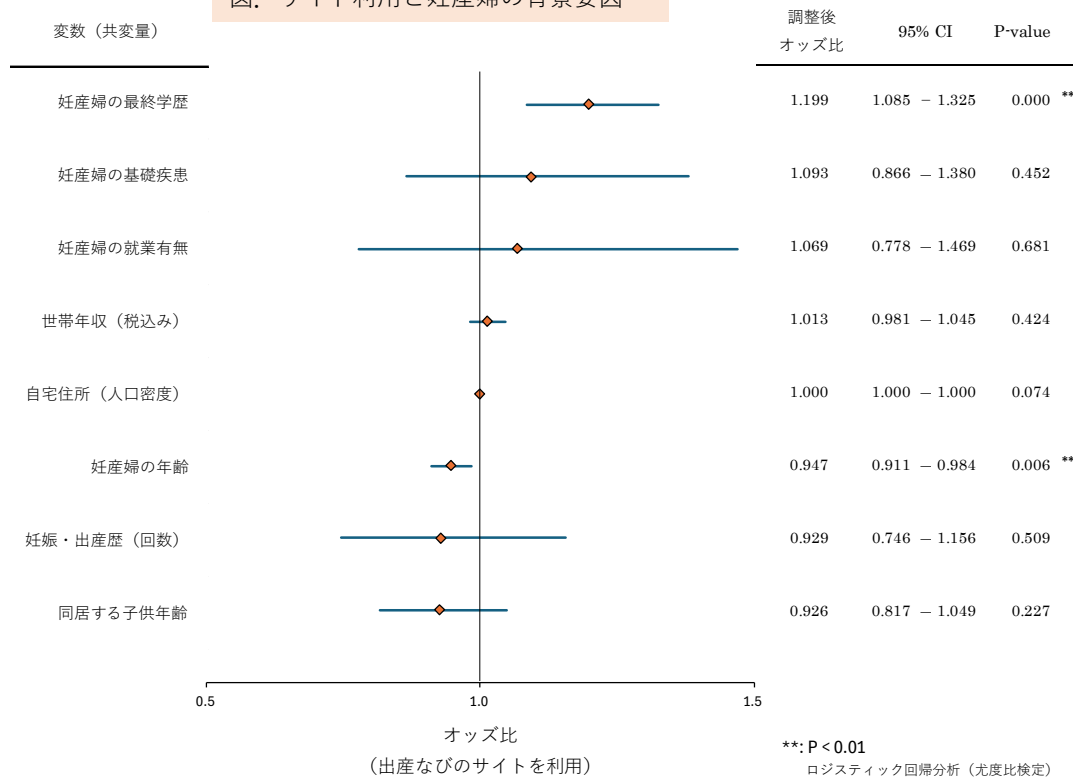
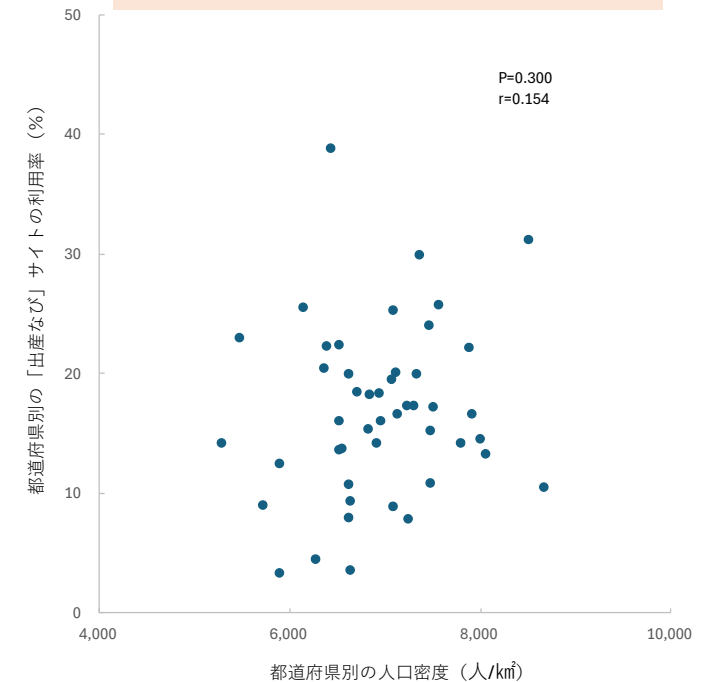


図. 人口密度とサイト利用率 (都道府県別)



相関分析 検定: t 検定

(備考) 利用率は、都道府県別にサイト利用数 ÷ 全回答数で算出

「出産なび」サイトを利用した理由

- サイトの利用割合は、出産経験による差は大きくなかった。サイト利用の理由として、今後の出産施設を探すという割合が58.8%を占め、既に通っている施設の情報収集も36.6%であった

図. 出産経験（現在、妊娠中の回答者群）とサイト利用の割合

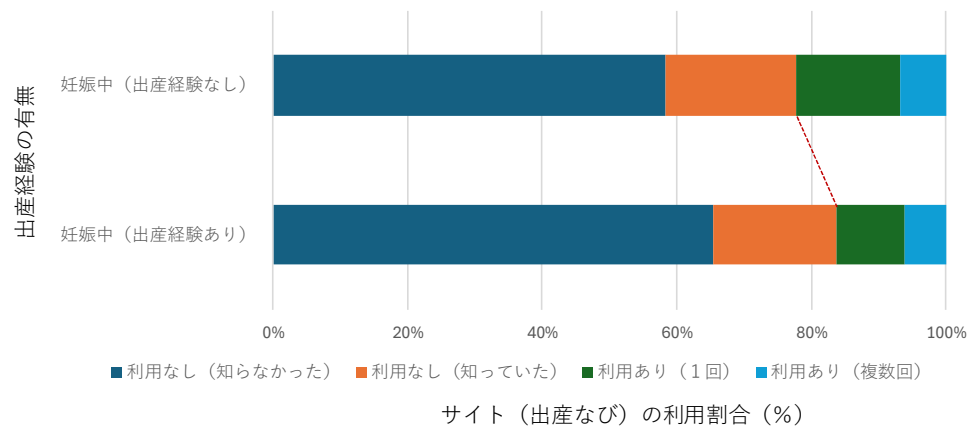
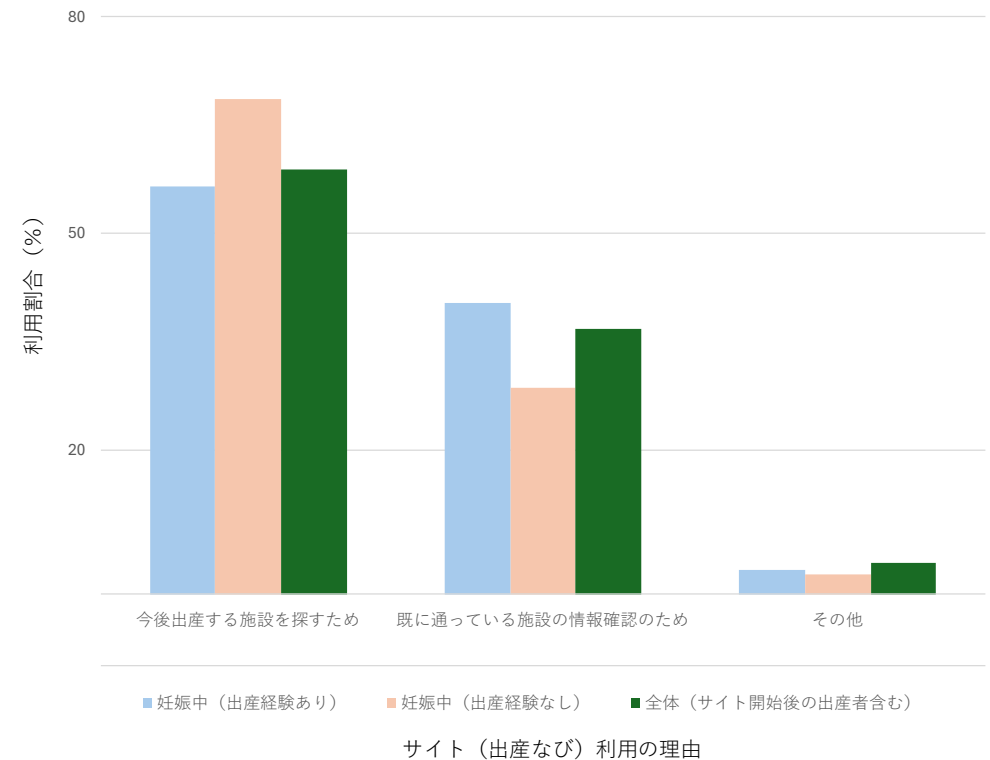


図. サイト（出産なび）を利用した理由



「出産ナビ」サイトの利用時期と情報収集の実施度合い

- サイトを利用した時期は、妊娠初期が42.2%で、妊娠前が25.5%、妊娠後期以降で17.2%となった。情報収集の実施度合いは、サイト利用群のほうが総じて高く、特に施設機能、アクセス、分娩サービスが顕著であった

図. サイト（出産ナビ）を利用した時期

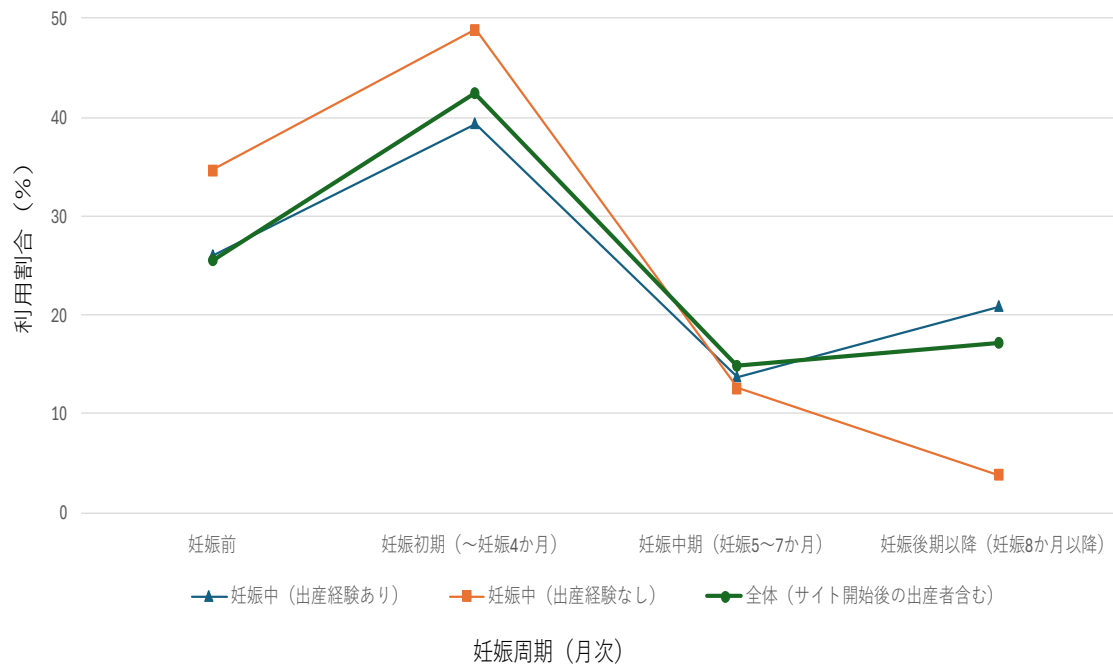
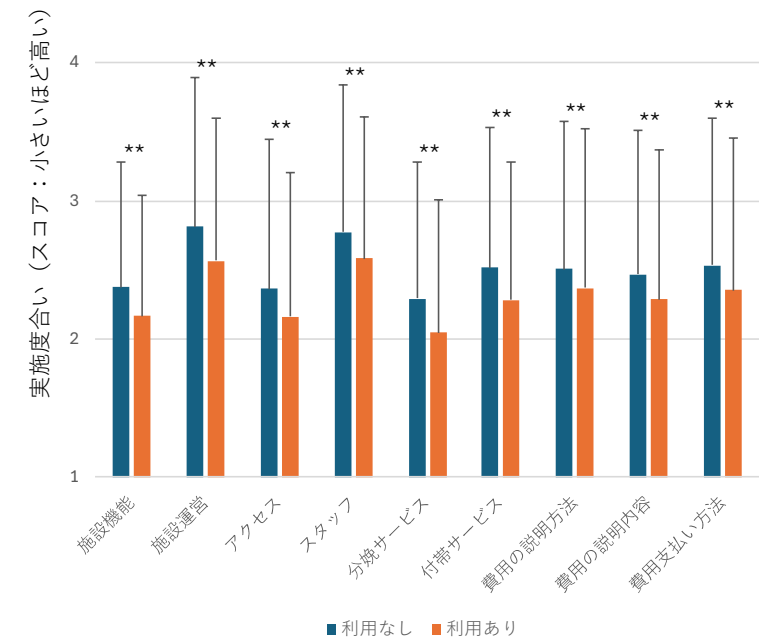


図. 収集情報の項目とその収集の実施度合い



■ 利用なし ■ 利用あり

サイト（出産ナビ）利用の有無

検定: t 検定, *: $P < 0.05$, **: $P < 0.01$

エラーバー: 標準偏差

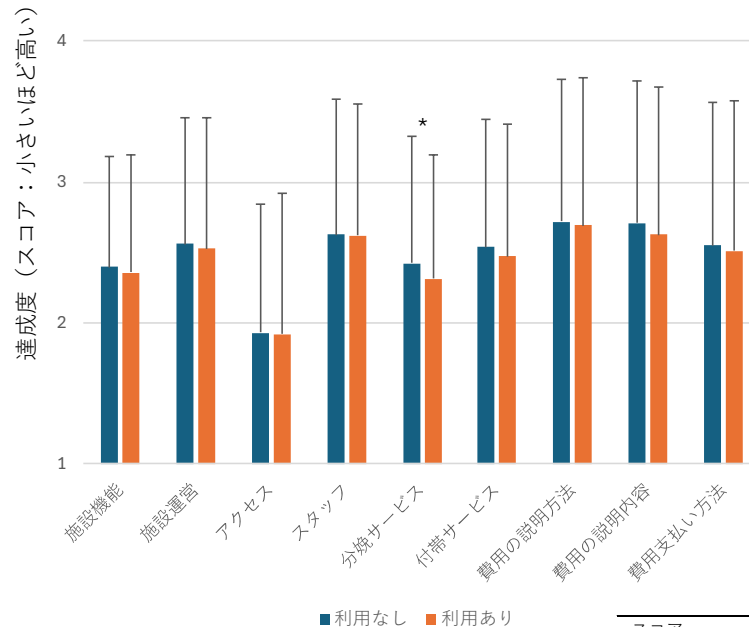
(注意: リッカート尺度の整理は、間隔尺度という前提を置いた)

スコア	レベル
1	かなり収集した
2	まあまあ収集した
3	どちらとも言えない
4	あまり収集せず
5	ほぼ収集せず

「出産なび」サイトを通じた情報収集の達成度・満足度

- サイトによる情報収集の達成度は、分娩サービスを中心にサイト利用者のほうが良い傾向にあり、その満足度も、費用の説明内容を中心にサイト利用者のほうが高い傾向にあった

図. 情報収集の項目と達成度



■ 利用なし ■ 利用あり

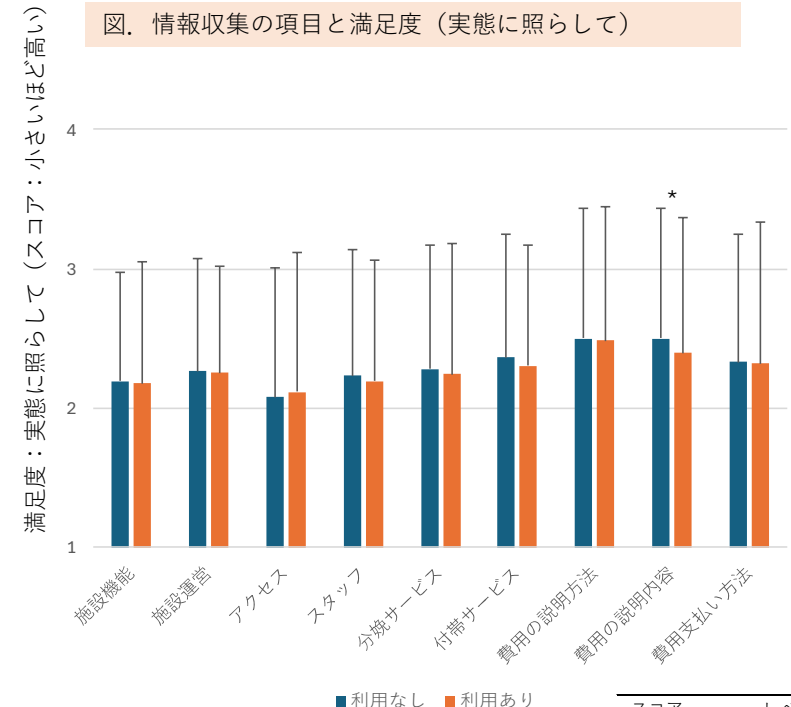
検定: t 検定, *: $P < 0.05$, **: $P < 0.01$

エラーバー: 標準偏差

(注意: リッカート尺度の整理は、間隔尺度という前提を置いた)

スコア	レベル
1	かなり得られた
2	まあまあ得られた
3	どちらとも言えない
4	あまり得られなかった
5	ほぼ得られなかった

図. 情報収集の項目と満足度 (実態に照らして)



■ 利用なし ■ 利用あり

サイト (出産なび) 利用の有無

検定: t 検定, *: $P < 0.05$, **: $P < 0.01$

エラーバー: 標準偏差

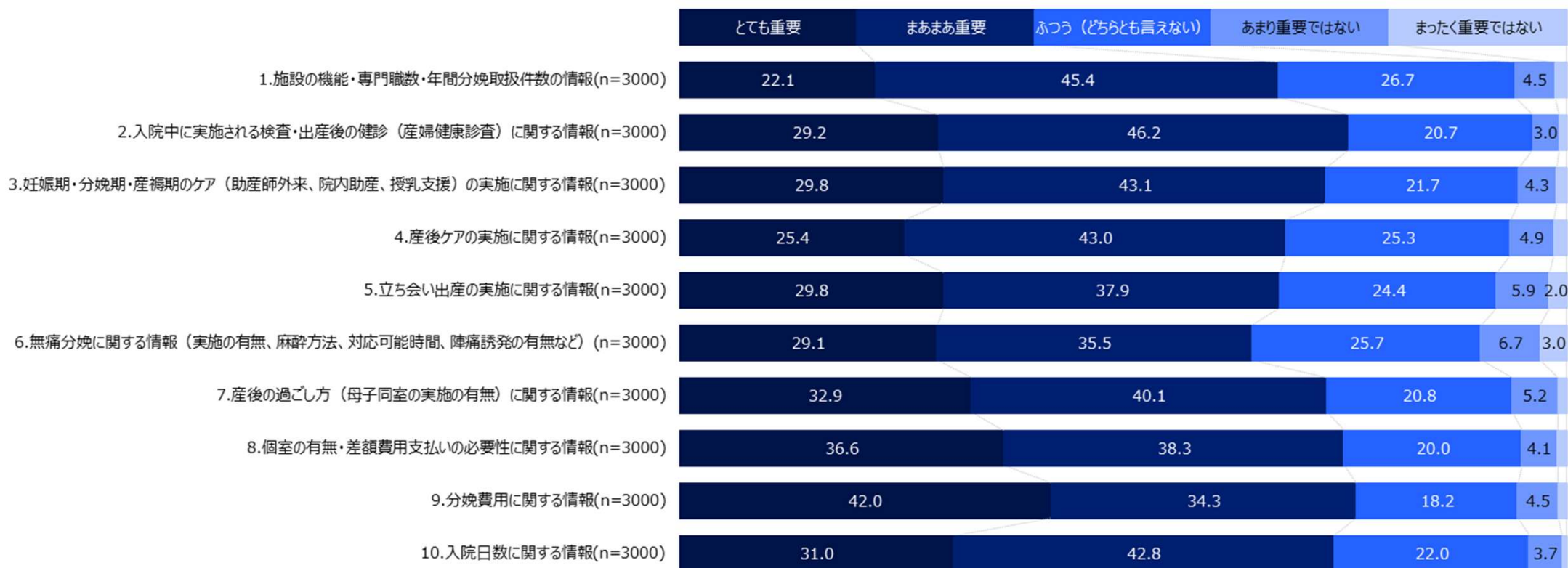
(注意: リッカート尺度の整理は、間隔尺度という前提を置いた)

スコア	レベル
1	かなり満足
2	まあまあ満足
3	どちらとも言えない
4	あまり満足でない
5	ほぼ満足できず

妊婦が施設を探す上での項目ごとの重要度

- 分娩費用に関する情報、個室の有無・費用に関する情報は、他項目に比べて重要視される傾向にあった。また、妊娠期や産後に関する情報も重要視される程度が高かった

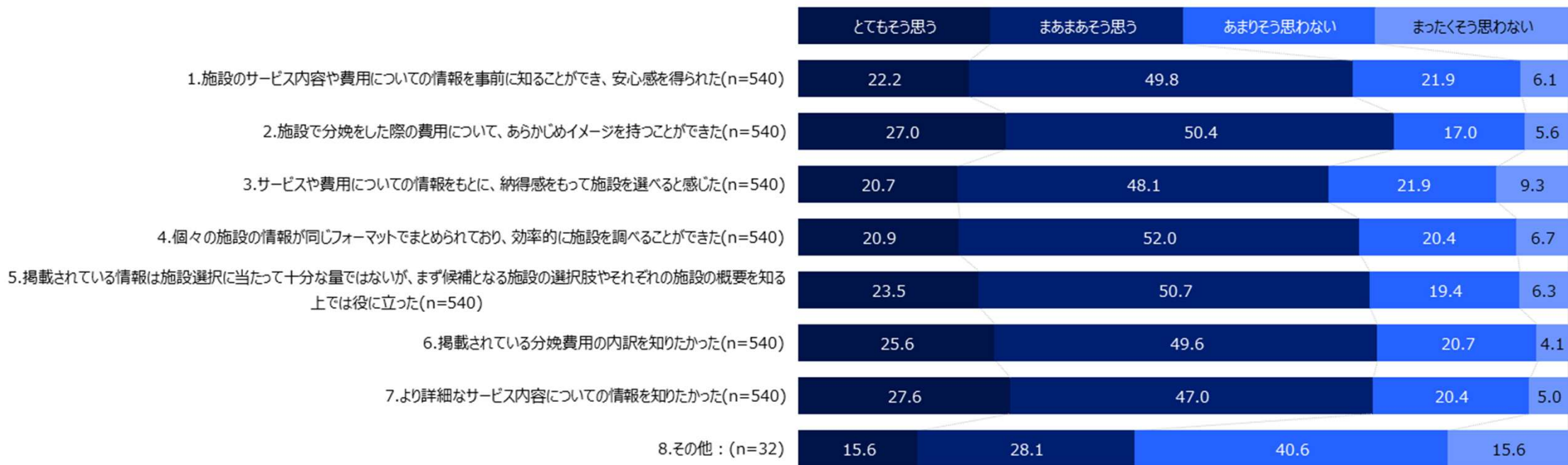
図. 出産ナビの掲載項目において施設探しに重要な程度を整理（5段階で評価）



「出産ナビ」を利用した感想

- サイト（出産ナビ）を利用した感想は、安心感、納得感、効率性という側面から、多くの項目において肯定的な回答の占める割合が高かった

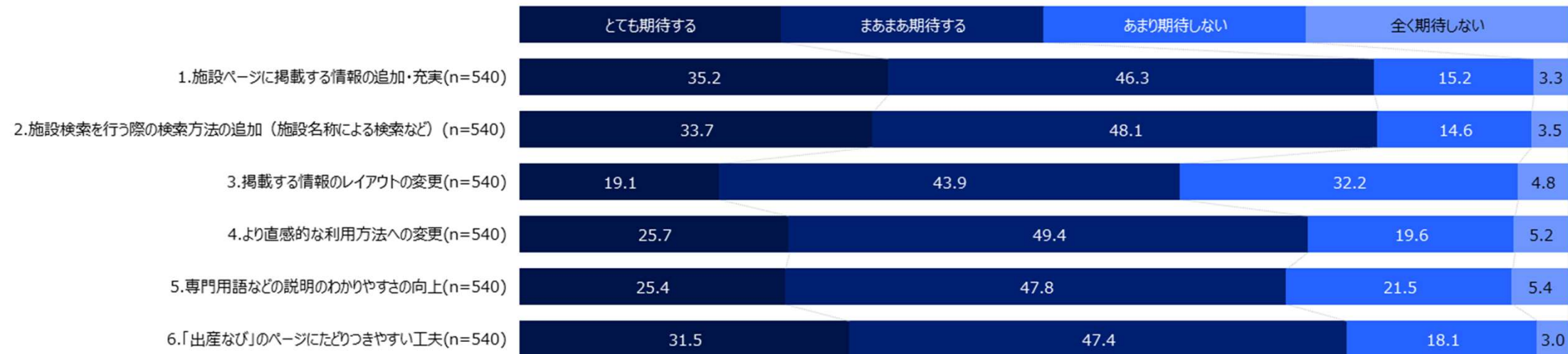
図. 出産ナビの利用に対する感想（4段階で評価）：出産ナビを利用したことでのどのように感じたか



「出産ナビ」への今後の期待

- 情報の追加、検索の機能、サイトへのアクセス向上は、出産ナビに対する今後のリニューアルの期待として、比較的高い傾向にあった

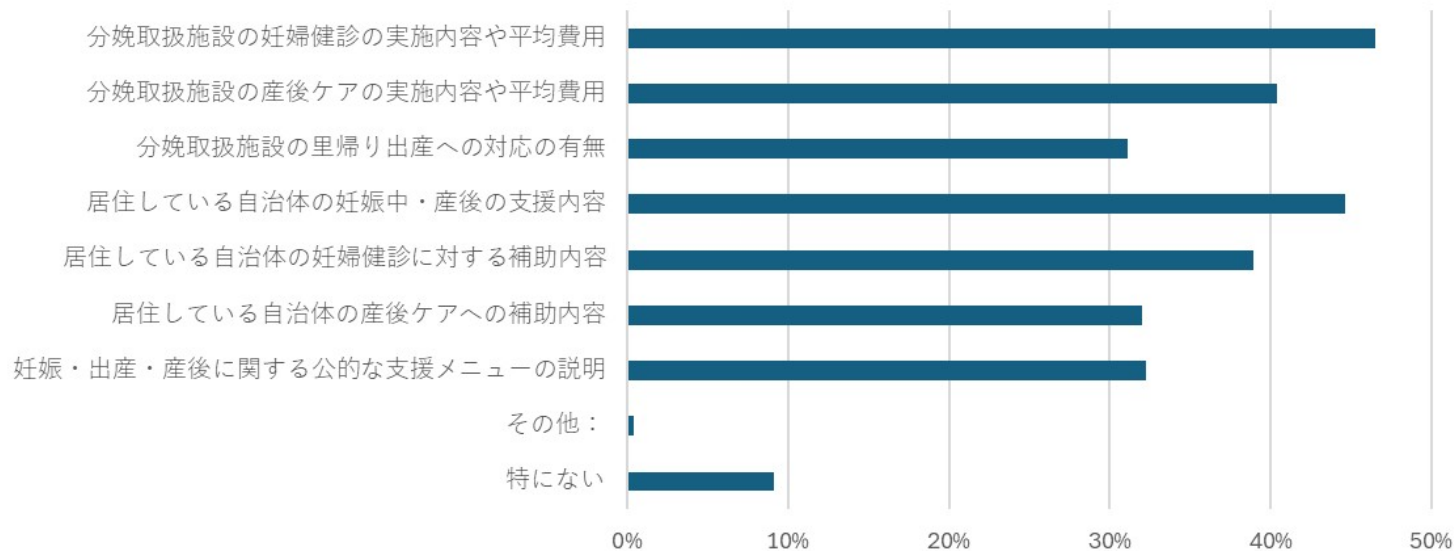
図. 出産ナビに対する今後のリニューアルの期待（4段階で評価）



「出産ナビ」に今後追加してほしい項目

- 「出産ナビ」に追加を希望する項目として、妊婦健診と産後ケアの実施内容や平均費用、自治体の支援内容・補助内容の掲載が挙げられた

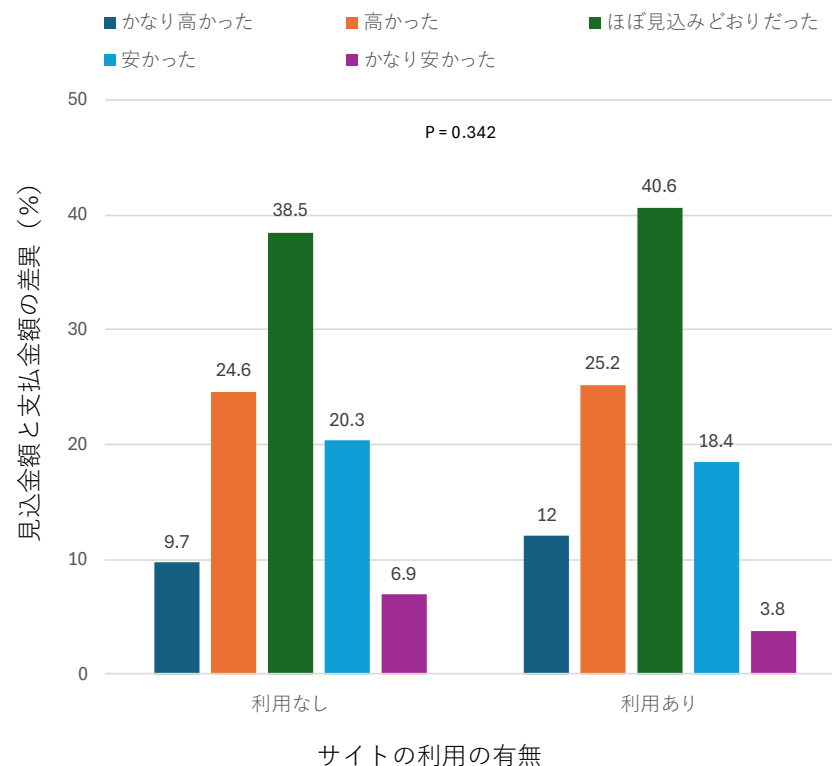
図. 出産ナビの項目について、今後追加してほしい項目（複数回答）



出産費用に関わる見込と評価

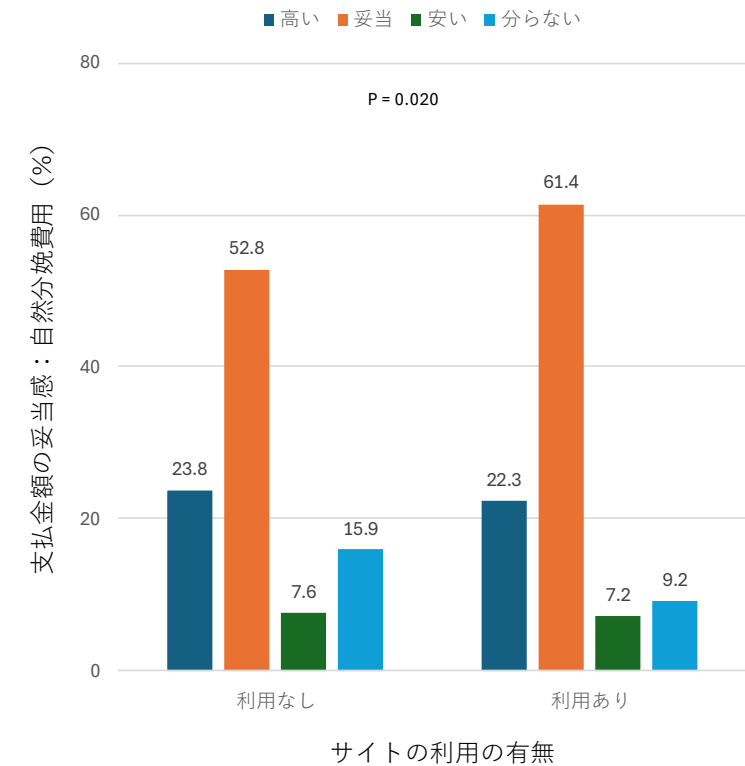
- サイト利用の有無により、見込み金額と支払金額の差異の評価に大きな差はなかった。一方、サイト利用群では、出産費用（自然分娩）に対する妥当感が高かった（[妥当]の回答割合の差:8.6%）

図. 出産費用：見込金額と支払金額の差異の評価



検定：カイ二乗検定

図. 出産費用の妥当性：自然分娩の場合 ※



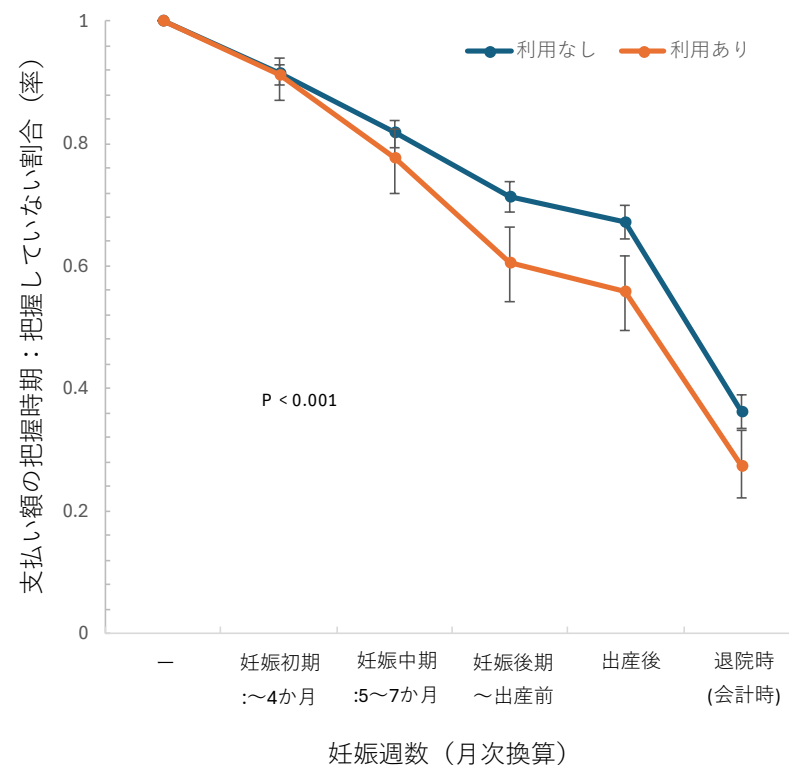
検定：カイ二乗検定

(※) 今回の分娩方法を問う設問において、1.自然分娩、2.吸引分娩、3.鉗子分娩、4.骨盤位分娩（帝王切開ではなく経膣分娩）、5.帝王切開術、6.その他、の選択肢（複数回答可）の中から自然分娩を選択した回答者（1455名のうち1030名）について整理したもの

支払金額の把握時期および「出産なび」での費用説明

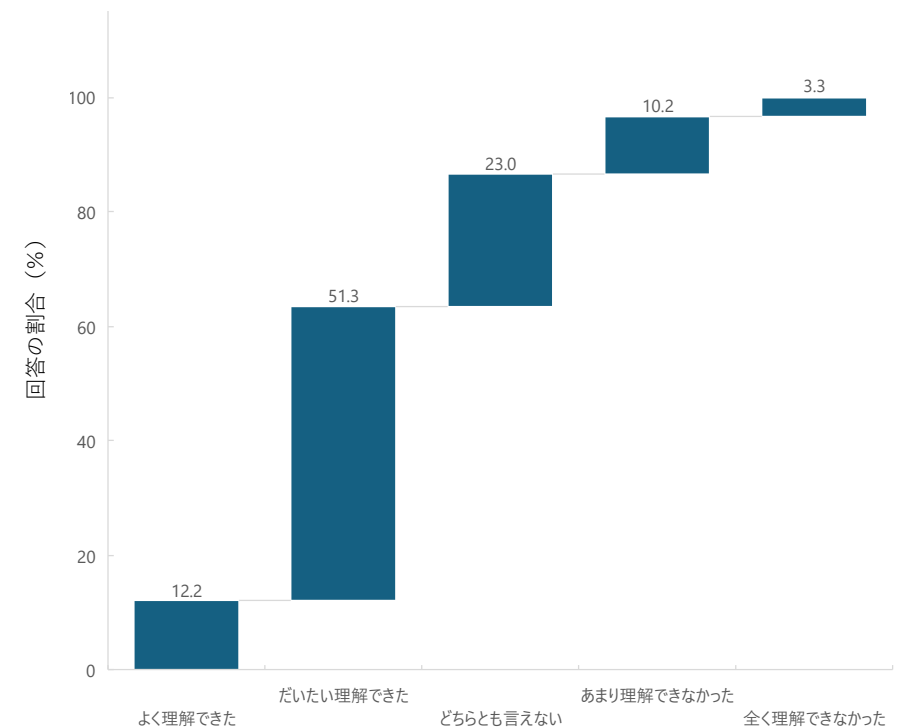
- 「出産なび」サイトの利用者は、支払金額の把握時期が顕著に早くなった。なお、「出産なび」サイトの利用者の多くは、サイトにおける出産にかかる費用の説明内容を理解していた

図. 支払金額の把握時期（生存時間解析を応用）



検定：Logrank検定（生存時間解析）、エラーバー：95%信頼区間

図. 出産なびに関して、出産にかかる費用の説明内容について理解できたかどうかの回答割合



「出産なび」に関して出産費用に関わる説明の理解

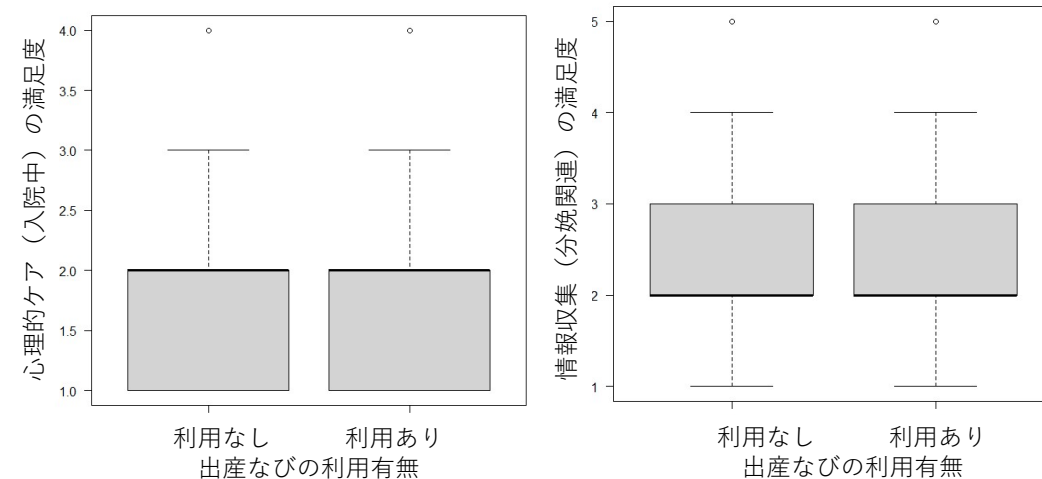
入院サービスと情報収集への満足度

- 妊産婦が経験した「入院サービス」と妊産婦が行った「情報収集」の主な項目について、「出産なび」サイトの利用別に満足度を比較をしたところ、サイト利用の有無による差異は認められなかった（妊産婦背景を調整した後でも差は認められなかった）

表. 「入院サービス」と「情報収集」の主な項目に関する満足度

主な項目	サイト利用なし		サイト利用あり		P 値
	平均値	偏差	平均値	偏差	
1. 入院サービス（満足度4段階：1=最高）					
心理的ケア(入院中)	1.815	± 0.793	1.846	± 0.762	0.416
医学的処置(入院中)	1.716	± 0.735	1.702	± 0.763	0.601
2. 情報収集関係（満足度5段階：1=最高）					
情報収集：施設機能	2.192	± 0.892	2.180	± 0.874	0.224
情報収集：分娩関連	2.281	± 0.892	2.241	± 0.940	0.156
「参考：妊娠中（出産経験なし）群」・・・・・・・・・・・・・・・・					
情報収集：施設機能	2.269	± 0.784	2.286	± 0.858	0.806
情報収集：分娩関連	2.355	± 0.823	2.357	± 0.897	0.979
検定：t 検定, *:p<0.05, **:p<0.01			スコア	レベル	
(注意：リッカート尺度の整理は、間隔尺度という前提を置いた)			1	かなり満足	
			2	まあまあ満足	
			3	どちらとも言えない	
			4	あまり満足でない	
			5	ほぼ満足でまず	

図. 参考：妊産婦背景を傾向スコア法で調整後のサイト利用有無の比較



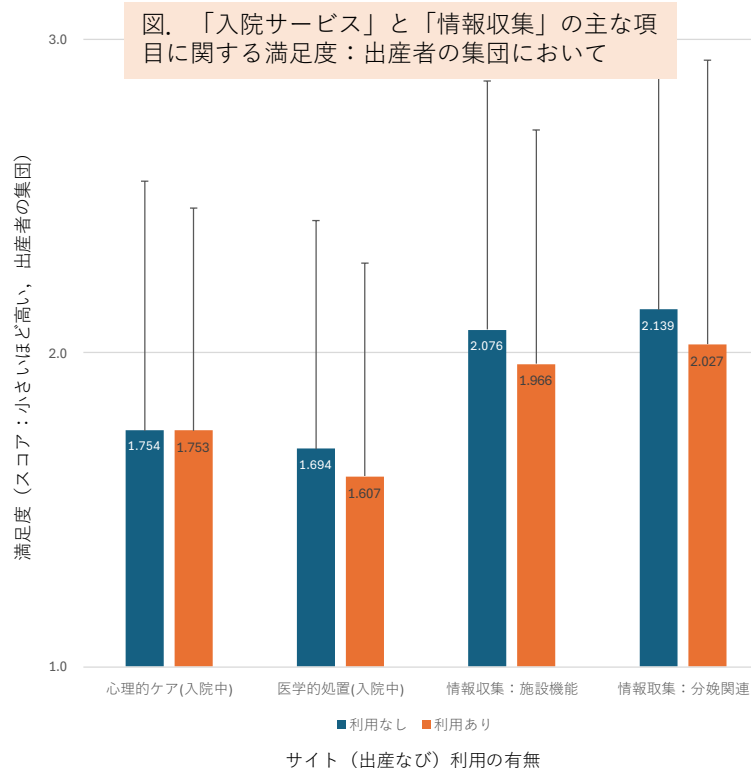
傾向スコア法：妊産婦の「回答時年齢」と「基礎系疾患」について1対1のマッチング

検定：マンホイットニー U 検定, *:p<0.05, **:p<0.01

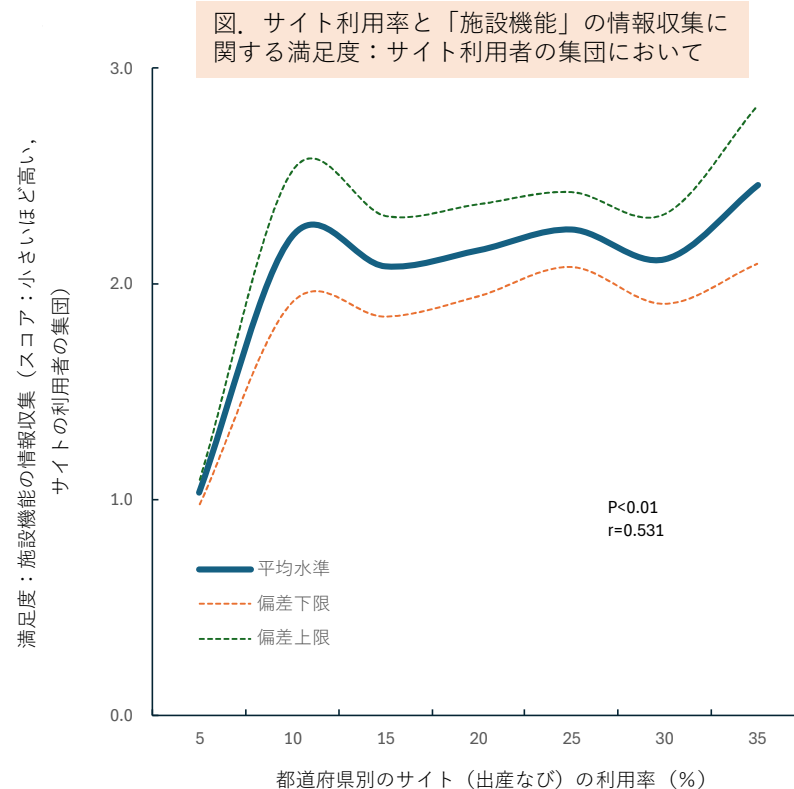
(補足) 傾向スコアマッチングは、観察データの統計分析の分野において、診療等を受けることを予測する共変量を考慮して、処置、方針、その他の行為等の効果を推定しようとするマッチング手法である。比較する集団間の背景を補正して揃え、解析上のバイアス減らす目的で利用される。

集団特性や地域特性に対する満足度

- 出産者の集団は、「出産なび」サイトの利用者の情報収集の満足度が高い傾向にあった。なお、「施設機能」に関する満足度は、サイト利用率が極端な水準の都道府県を除き大きな差は無かった



入院サービス系 (満足度4段階：1=最高) 検定：t検定, *:P<0.05, **:P<0.01
 情報収集関係系 (満足度5段階：1=最高) エラーバー：標準偏差
 (注意：リッカート尺度の整理は、間隔尺度という前提を置いた)



相関分析, 検定：t検定、エラー範囲：標準偏差
 (備考) 利用率は、都道府県別にサイト利用数÷全回答数で算出

(補足)

- ✓ 施設の選択肢等の地域特性の影響を受けて、「出産なび」サイトの利用率は変位する可能性もある
- ✓ 利用率が極端に低い場合に満足度が上がるのは、施設選択の重要性が相対的に低く、判断基準に影響を及ぼしている場合が想像される
- ✓ 利用率が極端に高い場合に満足度が下がるのは、施設選択(必要性等)の意欲が総じて高いが、結果が伴わない場合等も想像される

本日のまとめ



- 2024年9月時点の当調査において、調査対象の妊産婦の中で、「出産なび」サイトを知っている人は約36%、サイトの利用者は約18%であった
- 「出産なび」サイトを利用することにより、出産費用を把握する時期が利用していない者と比較して有意に早まった
- 情報収集の程度は、サイト利用群のほうが総じて高かったほか、費用に関する情報収集への満足度や、出産費用が妥当と感じる割合も高かった
- 以上により、妊婦にとって「出産なび」が出産費用等の情報へアクセスするツールとして活用されうることが示唆された
- なお、本資料による報告は、「出産なび」サイトの評価データの一部の整理に過ぎず、今後さらに検討が必要である
- 「出産なび」サイトの開始から間もなく、データ(普及やサンプル)の制約もあり、今後も分析等を継続する予定である

ご清聴、ありがとうございました。



以上